

## Jan Bartos pianist

ヤン バルトシュ

チェコのピアニスト ヤンバルトシュはINTERNATIONAL PRESSにおいて、「現在のヨーロッパにおける最高のピアニストの一人に数えられる洗練された情感豊かな演奏家である」と評されている。

彼の最新のCDは、Gramophone、BBC Music Magazine、The Sunday Times、American Record Guideをはじめ、多くの世界的批評家から称賛を得ている。

彼のヤナーチェクの録音に対しGramophoneの評者は、「ヤンバルトシュは、ヤナーチェクの聴く者の心を掴んで離さないが、場合によってはひとりよがりになってしまいがちな音の世界に引き込んでくれる。彼の奏でる音楽の流れ、そしてその音楽に対する解釈は想像力と深い洞察力に満ちたものであった。

このヤナーチェクのCDはNational Public Radioによる新しい時代の到来を告げる10のクラシックアルバムに選ばれている。

また彼のベートーヴェンの二枚組のCDに対しBBC Music Magazineは五つ星を与えている。「この録音は全てが素晴らしいが、特にop111のアリエッタは言葉に出来ないほど素晴らしいものである。」

プラハの春音楽祭でのリサイタルは、全世界にweb配信されている。また、プラハの春音楽祭事務局が主催したルドルフ フィルクスニー ピアノフェスティバル（他にエフゲニー キーシン、マルカンドレアムラン、ベアトリス ラーナが招待された。）において、カペラーチ、ベートーヴェン、シェーンベルク、シューマン、ショパンの作品が演奏され、券は完売した。また、ブルノにおけるヤナーチェク国際音楽祭ブルノにおいて、彼のピアノ作品全曲を演奏している。

また、ヨーロッパ以外においても、アジア、アメリカの多くの都市で演奏会を開催していて、その中にはカーネギーホールも含まれる。

彼のニューヨークデビューは2009年で、マンハッタンフィルと共にベートーヴェンのピアノ協奏曲第五番を演奏している。

先日亡くなったチェコの指揮者イルジー ビェロフラーヴェクは彼の熱烈な支援者で、チェコフィルの演奏会において度々共演を果たしている。

ヤンバルトシュはチェコフィルと共にモーツァルトのピアノ協奏曲第二十番ニ短調K466を録音している。ロンドンのThe Timesは「アルフレッド ブレンデルの推奨を受けたこのライブ録音は故ビェロフラーヴェクと彼の素晴らしいオーケストラにより、モーツァルトのドン ジョヴァンニを思い起こす暗く劇的な響きを作り出している。一方、ピアノの歯切れの良いリズムと滑らかに歌うレガートは、作曲家自身の持つ明るい気質をよく表している。

彼はその他にもヤクブ フルシャ、クリスチャン ヤルヴィ等の指揮者、チェコ放送交響楽団および他の多くのオーケストラと共演している。

バルトシュはニューヨークで三つのコンクールに優勝している。2009年Mieczyslaw Munz、2008年Zaslavsky-Munz、2004年Peter S Reedである。それ以外にも、ニュルンベルクのロータリー財団、チェコのコンチェルティーノプラハが挙げられる。

また彼は、チェコ文化省奨学金、オランダのルコルバ信託賞、ドイツのシンメル賞を受けている。



ヤンバルトシュは伝説のピアニスト、イヴァン モラヴェッツの最後の弟子である。チェコでマルティンバリーとミロスラフ ランゲルのもとで学んだ後、ゼノン フィッシャー、ジェームス トッコ、レオン フライシャーに師事し芸術性を磨く。近年彼はアルフレッド ブレンデルの指導を受けている。また、室内楽をジュリアード弦楽四重奏団のロバート マン、エマーソン弦楽四重奏団のローレンス ダットンに師事している。

彼はマンハッタン音楽院のディプロマとプラハ芸術アカデミーの博士号を取得している。

ヤンバルトシュは現在、演奏会とマスタークラス、講義等を組み合わせた革新的プログラムを作り上げたプラハミュージックパフォーマンスの創始者である。

2019年彼はチェコ共和国におけるアメリカンスプリングフェスティバルの芸術監督に就任している。